

第1回 安平町合同学校運営協議会 全体会

日時：2019年6月5日18時30分～21時

□前回の質疑応答の内容・意見

Q. 今回、全てのコミュニティスクール委員を呼んだが、今後も全員が呼ばれることになるのか。

A. 全員で約50名いるので、全員では進行が難しいことも出てきそうである。各学校のコミスクから5名程度を選抜したい。今回は、初回だったので、今まで経緯などの報告と講演会とした。検討部会は公開とする。あびらチャンネルやHPで開催内容を告知する。それは参画条例に対応するためでもある。次回6月27日の検討部会では具体案について議論してく。今までの説明会や考える会で出た案を基にさらにIEEで施設の計画に反映し、具体化していく。

具体化していくときに、講演の中にあつた「安平町の3つの“ら”は何か」という事についても議論していきたい。だから：地域の関わり、あら：中学校がない、小学校は余裕教室がない、みらい：新しいテクノロジーでつながる、などである。

新しい学校を考える会は誰でも参加できる会である。HPで議題や日時を公表する。主な検討課題は各会で違う。広く住民の声を聴く会として、新しい学校を考える会がある。その他に、教職員検討会、アンケートを実施する予定である。選択制は別の議論ではあるが、住民参加で検討していく必要があるだろう。まずは早来中学校の再建を早急に行う議論・検討を進めたい。

Q. 一番知りたかったのは、何のために集まったのかである。延期になって関心をもった人もいるし、地域住民より意見を持った保護者が、この会に参加した方がよいのではないか。どんな人でも参加できるとしているが、真剣に考える人、真剣ではない人がいると思う。その状況で、コミュニティスクールで検討部会を立ち上げてよいのか確認したい。

A. 議論を重ねて学校づくりを行う必要があると思うが、公募をしてじっくり審議している時間がない。仮設校舎の早来中学校を早急に再建するための審議会やワークショップをはじめなければならない。そのためにもコミュニティスクールを中心として、審議会としたい。そうでないと、役場で公募しないといけなくなり、さらに検討や議論ができる時間が無くなる。

Q. 早来中のコミュニティスクールが入れ替わる。メンバーは学校が決めればよいのか。

A. 学校が決めることとする。

Q. 中学校の再建は必要であるが、義務教育学校にする学校にする必要性はなにか。早来ばかりではなく、安平町内の学校を考えることが大切である。遠浅小・安平小の学校選択制を先に検討する必要があるのではないか。

A. まずは、早来中学校の再建を優先としている。学校選択制については、児童数が10名以下になった時に考えられる。送迎の体制や、財源、地域に学校がなくなる等について、地域住民に了承してもらうため、確認・検討していく必要があるので、学校選択制については段階を踏んで取り組みたい。学校選択制となった時に安平小学校・遠浅小学校の学区である児童は、スクールバスは利用できない。統合となれば利用できる。

説明会では統合や学校選択制を希望しているという意見多くなっている。それらを踏まえても慎重な検討が必要であるため、早急に再建しなければならない早来中学校の検討とは別にしている。

5月23日の説明会で、新しい学校ができてからではなく、今からでも選択制をできないかという意見があった。早い時期から選択制についても検討していく必要がある。選択制の審議についても早来小・遠浅小・安平小のコミュニティスクールで審議が必要になっていくだろう。ただ、早来中学校の再建は急を要しているため、与えられたスケジュールの中で進めていくことをご理解いただきたい。

Q. 検討部会（6月27日）までに部会メンバーを決めなくてはならないのか。

A. 検討部会までに部会メンバーを決めることとなる。

Q. 今までの説明会の人数は何人だったのか？

A. 平均20名程度である。保護者参加が少ない。学校や広報で呼びかけていたが、早来小学校の保護者の約10%程度である。それは課題なので、メンバーを固定し、継続的に議論していきたい。参加しない人が問題なのではなく、声のかけ方にも課題があった。遠浅小と安平小の保護者も参加もあり、興味関心があるようだ。遠浅小・安平小の保護者は選択制のこともあって参加が多いのではないかと感じている。少年団や文化団体にも声掛けをしてきた。各学校にお願いしながら、今後も進めていきたい。